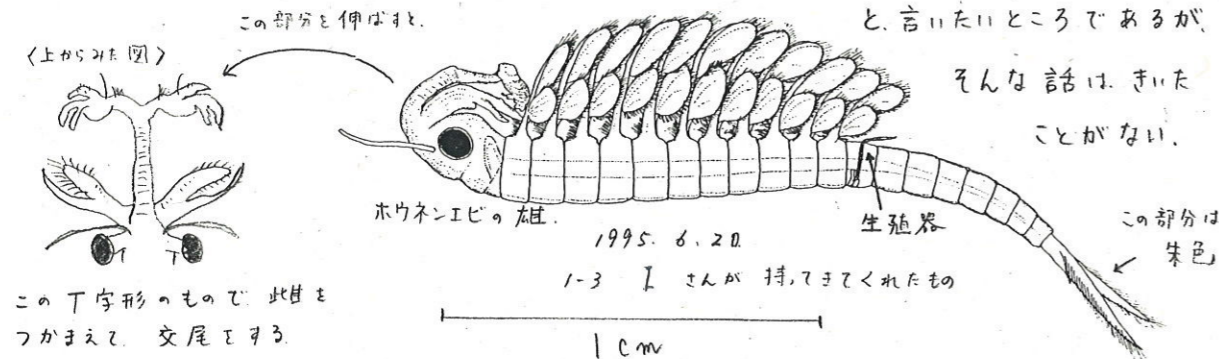


すっかんぽ

1995年6月号

ホウネンエビと カブトエビ

「うちの近くの田んぼにエビがたくさんでてるよ。」
S.H.R.に行こうとしていた私を呼びとめ、A先生が、そう教えてくれた。A先生は、地元でとれる魚や小動物についてくわしく知っていて、時々、情報をよせてくれるのである。ところで、「田んぼにいるエビ」として何かわかるかな？ エビはエビでも、ザリガニではなく、ミジンコに近い生き物、その名も、ホウネンエビとカブトエビと、いうのである。以前に、ホウネンエビを見たことがあるという、1-3の出井文さんにも聞いてみたら、次の日、5匹のホウネンエビを学校にもってきてくれた。体長2cm程度で、腹部を上にして、11対の肢をせわしなく動かしている。田んぼの緑リウ類を食べているせいか、体全体が緑色で、しほの先だけは朱色である。緑と朱のコントラストが美しく、ゆたりと水面近くを泳ぐ様子は、まさに、「田んぼの寶石」と言いたいところであるが、そんな話は、聞いたことがない。



ところで、このホウネンエビには、雄雌がいて、雌は、だいたい色の卵を持っているので、すぐに見わけることができる。また、雄には、頭部に、T字形の付属器があり、ふだんは、お尻たんでいるが、交尾の時に、これを伸ばして雌を押しあわせるのである。ちゃんと、棒状の生殖器も持っている。

ホウネンエビの寿命は、田んぼに水が入ってから、干上がるまでの期間で、せいぜい1ヶ月から1ヶ月半しかない。その間に成長、交尾、産卵を行わねばならないのである。また、年によっては、大発生することがあり、その年は豊年になる。という言い伝えから、「ホウネンエビ」の名がつけられているのだ。ホウネンエビは、栃木県では、県南でしか、ほとんどみることができないが、県南でも、限られた地域にしか、生息していない。もし、このホウネンエビが近くにいたら、何かいいことありそうである。

しかし、カブトエビは、さらに限られた田んぼにしか、発生しない。1-6のO君は、あちこちの田んぼを捜し回ってくれたが、とうとう

みつからなかったそうだ。不思議なことに、ある決まった田んぼで、毎年発生していても、その隣の田んぼには、全くいない。という場合がほとんどなのだ。

現時点で、生息が確認できたのは、佐野のヌケ所と、小山の小袋の、計3ヶ所しかない。このカブトエビがみつかったら、もうそれだけで、人に自慢してもいいくらいなのである。ちなみに、

O君は、みつからなかった「悔しさ」からか、カブトエビの代わりに、カブトムシをつかまえてきてくれた。みんなも、カブトエビを捜してみよう。みつかったら、教えてね。

